様式第３号

令和５年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	23	学 校 名	静岡県立吉原高等学校	校 長 名	藤村　寿一

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**基礎・基本的知識及び技能を習得させ、思考力、判断力、表現力を育成する。**	・「他者の授業の良いところを自身の授業に取り入れた」と答える教職員 80%以上 ・授業で、「理解確認をしている」 と答える教員 100% ・「授業がわかる」と答える生徒（保護者）80%以上 ・公開授業 年間２回以上 ・「ICT 機器を活用し授業を展開できる」と答える教職員 100% ・「学びの基礎診断」を学習指導に役立てている教員 80%以上	・93.9%(a) ・93.9%(b) ・生徒 81.3%(a) 保護者 70.8%(b) ・５回(a) ・88.3%(b) ・63.7%(b)	B	・本年度は新たに授業研究期間中に教科の枠を超えて授業改善に取り組めるよう、研修グループを設定するなど工夫した。 ・学習評価の変更に伴い、生徒の理解に応じて手立てをするなど工夫するよう徹底したい。 ・保護者からのアンケートのコメントでは、授業の進め方に対する疑問点も上がっていたため対応が必要であると考える。 ・校内の教員間の公開授業の機会は十二分に確保した。 ・研修の成果により活用方法の共有が行われ、ICT 機器による双方向型授業がかなり推進できた。 ・スタディサポートなどにより生徒の基礎学力定着に役立てたが、今後に向けて見直しを行う。
イ	認め、褒め、励ますことで自己肯定感を高め、他者との良好な関係を築く力を育成する。	・「挨拶ができている」と答える生 徒 100%、保護者 90%以上 ・「自分は価値ある人間である」と答える生徒の割合 70%以上 ・「先生はよく褒め、認め、励ましてくれる」と答える生徒（保護者）85%以上 ・「生徒をよく褒め、認め、励ますように心がけている」教員 100% ・自分の思いや考えを言語化できる 生徒 100% ・読書で様々な人の生き方や考えに触れることで、「読書は自分を豊かにする」と答える生徒 70%以上	・生徒 92.9%(a) 保護者 74.6%(b) ・69.7%(b) ・生徒 85.1%(a) 保護者 76.6%(b) ・97.1%(a) ・79.3%(b) ・82.7%(a)	A	・外部の方や保護者への挨拶が不十分な傾向がある。誰にでも気持ちの良い挨拶ができるよう日々の啓発活動が重要である。 ・R4 の 67.5%から上昇。自己肯定力も 70.5%(R4)→71.3%(R5)に上昇していることからも改善された。 ・生徒と保護者の結果に差があり、保護者の疑問点としても、教師からの働きかけ、声掛けの改善を望むコメントがあった。 ・昨年度は 100%だったことを踏まえて、再度教員の心がけを改めるよう努める。 ・総合的な探究の時間で発表の機会を設けたが、R4 の 80.7%から微減したので対策が必要である。 ・朝読書の時間を設けることで読書の時間を確保し、様々な生き方や考え方に触れることができた生徒が多くいた。

ウ	**自主・自律の精神を育み、自己決定する力を育成する。**	・「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合 80％以上 ・１週間の家庭学習時間の一日平均が、１，２年生２時間以上３年生 2.5 時間以上 ・自ら進んで授業に取り組む生徒の割合 80％以上 ・学校行事満足度 70％以上 ・ボランティア実践。参加者に事前指導を２回実施し意識を高め、単位習得率 100％となる ・大学主催の講座等への参加 20 人以上 ・英語検定等の外部検定で CEFR B-1 以上取得 20％以上 ・「失敗しても努力し続けることができる」と答える生徒（保護者）の割合 80％以上 ・「部活動・生徒会活動は活発に行われている」と答える生徒（保護者）70％以上 ・「部活動ガイドラインを意識して行動している」と答える生徒・教職員 100％	・84.8％(a) ・１年 1.5 時間 (b) ２年 2.0 時間 (a) ３年 3.1 時間 (a) ・88.8％(a) ・86.4％(a) ・２回 100％(a) ・499 人(a) ・9.1％(c) ・生徒 70.7％ (b) 保護者 78.3％ (b) ・生徒 91.8％ (a) 保護者 90.8％ (a) ・生徒 72.8％ (b) 教職員 97.0％ (b)	A	・昨年度の 78.3％から上昇し、目標を超えた。初期指導、学期当初の指導を充実させ、主体的に学習に取り組む態度が改善された。 ・学年ごとの学習時間が R4 より低下したものの、2・3 年生は目標に到達した。主体的に学習に取り組むことに加えて、自主的・自発的に学習に取り組むように促す指導が課題である。 ・授業改善に連動して、生徒が授業へ主体的に取り組む意欲も高い状態を維持している。 ・コロナ後で行事が再開し、生徒の前向きな姿勢が伺えた。 ・事業所と連携し、１～３年で 21 名が夏休みなどを利用して実践した。 ・「夏の進路研究会」に 12 大学、1 専門学校を招聘した。オープンキャンパスにも積極的に参加した。 ・R4 は 3％であったので上昇はした。助成もできたので、英検２級レベル相当の生徒を増加させる。 ・英検等の助成は、一人で何回でも受けられるようにしてあり、失敗しても努力することを諦めないような制度にした。 ・部活動、生徒会活動について生徒・保護者共に 90％を超えることができた。今後も継続していきたい。 ・教職員は理解しており、ほぼ達成している。生徒は認識していない可能性があるので、確認させる必要がある。
エ	**キャリア教育を推進し、他者と関わりを通して地域に貢献する力を育成する。**	・「研究や研究内容を取り入れた授業を実践できた」と答える教員 80％以上 ・「総合的な探究の時間」が進路選択に役立った生徒 90％以上 ・授業内容等に興味があって本校を選択した生徒の割合 80％ ・「進路指導に関して学校と家庭が連携できている」と答える生徒（保	・75.8％(b) ・56.4％(c) ・69.1％(b) ・生徒 91.8％ (a) ・保護者 90.8％	B	・校内研修で学習評価と ICT 活用の研修を行った。研究に取り組み、それを実践できる教員をさらに増やすことを課題としたい。 ・「総探」が、２年前の進路学習から課題探究とし、成果が出ているが、進路との繋がりを指導したい。 ・R4 は 56.0％。中学生への説明会等の広報で授業内容等に興味を持たせることに重点を置いている。 ・生徒、保護者ともに目標を大きく上回った。三者面談や個別指導等で生徒一人一人に寄り添った指

様式第３号

		護者）75%以上	(a)		導を継続していく。
		・外国の学校との交流が学習意欲の向上に繋がった 80%以上	・92.8%(a)		・台湾姉妹校交流、韓国とのオンライン交流や、マレーシア、オーストラリアの訪問等があった。
		・「研修が表現力向上に役立った」と答える生徒80%以上	・94.4%(a)		・プレゼンやポスターで表現力向上の研修を行い、全校発表の機会も増やした。
		・地域人材の招聘年間10 回以上	・53回(a)		・「総探」の時間等で地域人材による支援を多く実施した。
		・地域等へのボランティアへの参加 年間延べ550人以上	・233人(b)		・R4は196人。コロナ後で参加しやすくなったであろう。部活動ごとでの実施をさらに広げたい。
		・「進路を開拓していくのに図書館は役立った」と答える生徒70%以上	・41.3%(c)		・図書室の利用者が少なかった。進路の開拓につながる本の紹介や購入図書の精選を行いたい。
オ	保健安全教育や教育相談活動を推進し、自己や他人の健康の保持増進に努める力を育成する。	・清掃参加 100%	・100%(a)	A	・本年度も全員で清掃に取り組むことができた。
		・地域防災訓練参加率100%（生徒・教職員）	・生徒37.3%（参加187人）(c) 教職員34.8%（参加16人）(c)		・修学旅行や期末テスト期間のため参加率は低かった。自治体によっては参加制限があったり、地域役員のみの参加となっていたりしたため、訓練の対象外となった生徒・教職員もいた。
		・防災教育推進連絡会議年１回	・１回(a)		・学校安全計画と危機管理マニュアルを関係者と共有できた。
		・いじめの加害０件 被害０件	・０件(a)		・来年度も継続できるよう、日々の教育活動を行う。
		・いじめアンケート実施年３回	・３回(a)		・同上
		・学校や学年行事を通じて、互いを認め励まし合える活動の場を提供する（年３回以上）	・３回以上(a)		・体育祭、球技大会、学年企画を通じて実施できた。授業、「総探」そして部活動等もそのような場にしたい。
		・SNSに関係する問題行動０人	・０人(a)		・来年度もSNS講座を継続し、未然防止を図る。
		・長期欠席生徒の減少	・３人→３人(b)		・昨年度と同数だった。転学者等のうち長期欠席者は７名だった。
		・教育相談だより発行学期２回	・２回(a)		・来年度も状況を見ながら定期的に発行していきたい。
		・新体力テスト優秀校入賞	・入賞なし(b)		・個人の目標を立て、取組に工夫を行った。ほぼ目標達成していた。
		・交通安全意識高揚指導毎月１回	・毎月１回(a)		・予定していた月に実施。来年度は挨拶運動にも力を入れていく。
		・外部団体と連携した交通安全事業の実施 各学期１回以上	・１学期２回 ２学期２回(a)		・サイクルマナーアップモデル校の指定事業を行った。ヘルメットの着用について考えた。
		・自転車整備店で年 1回は整備する	・３月実施予定(a)		・継続手続きの際に実施することとなっている。(2～3月)
		・交通事故死者 年間０	・死者０人		・交通安全に関しては、現時点で

		人、負傷者 年間 10 人以下 ・自転車指導カード交付枚数 年間 100 枚以下	(a) 負傷者７人 (a) ・60 枚(a)		は目標を達成できている。本来は負傷者も０人、カード交付枚数は０枚が理想であると考えているので、そこに向け啓発活動を行っていきたい。
カ	適切な事務の執行により信頼される事務室運営を行う。	・監査・検査等による指示・指摘 件数０件 ・施設、設備、用具等の不備に起因する事故発生件数０件	・０件(a) ・０件(a)	A	・複数人によるチェック体制やヒヤリハットを意識した声掛けのできる環境を維持する。 ・職員等から報告される不良箇所へは即日の確認と、できるだけ早い対応を継続する。
キ	「チーム吉高」として教職員が協働的な教育活動とワークライフバランスを意識した働き方により、本校生徒の成長に真に有効な学校運営を推進する。	【職員集団の組織性、協働性（チーム吉高）の向上と教職員の自己有用感の醸成】 ・全分掌が年度末までに業務改善を報告できる。 ・「互いに認め、支え合い協力して教育活動にあたれた」と答える教職員 80％以上 ・「授業改善に役立った」と答える教員 90％以上 ・「部活動ガイドライン」の趣旨を遵守している部活動 100％ ・全教職員の年次休暇取得が前年度比増となる。 ・「年休、夏季休暇、変形労働の振替等を活用できた」と答える教職員 70％ ・時間外勤務時間前年度比 5％減 ・ホームページ、ツイッター更新 350 回以上	・報告予定(a) ・97.3％(a) ・84.4％(b) ・97.0％(a) ・25 日 13 時間 15 分の増(a) ・94.6％(a) ・5.4％減(a) ・429 回(a)	A	生徒・保護者アンケートでいただいた意見、職員間で気づいた点を、それぞれ関わる分掌で検討することができた。 ・昨年度にかなりの業務改善を行い、本年度も継続した。 ・教員間の信頼関係（ラポール）の形成を図る研修や、若手・中堅教員の組織運営力の向上も行い、目標を大きく超えた。 ・職員研修の改善を図り、R4 の 81.5％からは上昇した。 ・管理職の声掛けにより R4 の 92.6％からは上昇した。実態調査を行い、ガイドラインを見直す。 ・R5 は 296,795 分、R4 は 259,700 分で 36,795 分の増加 ・長期休業中には、積極的な年次休暇等の取得を管理職が呼びかけた。修学旅行等の変形労働の振替等の見直しも行った。 ・R5 は 1,184,826 分、R4 は 1,252,087 分で 67,261 分減少。 ・ホームページ 82、X（旧ツイッター）239、インスタ 108。